



地域の皆様と生涯つながる歯科医院

登戸子ども&おとな歯科

ニュースレター



院長
歯科医師
青柳 潔



副院長
小児歯科専門医
青柳 陽子

これからの歯科は予防が大切です

これからの医療は予防が大切であることは、すでに皆さまもご承知のことと思います。その中でも歯科は、失ったら二度と取りもどせないにもかかわらず、悪くなってから治療する方が多いのはなぜでしょうか。

歯科医院はむし歯や歯周病になる前に通うところです。できれば子どもの頃から、大人の方は今からでも、当院で予防を試してみませんか？

▶お問い合わせ・ご予約は

TEL. 044-922-8241

人生100年時代 歯の健康寿命を伸ばそう！

日本では平均寿命が延伸して、世界的な長寿国となりましたが“健康寿命”はどうでしょうか。健康寿命とは、誰かの介護などを受けない状態で、自立して生活ができる生存期間のことです。

実際、健康寿命として考えると寿命から10年は差し引かなければならないと言われています。さらにお口の状態に着目してみると、80歳になって残っている歯の本数は、10本前後、これに対して欧米では20本程度が残っているというデータがあります。

この差は定期検診（メンテナンス）受診率の違いといわれています。健康に噛めるかどうかということは、全身の健康にも関わってきます。

当院では、痛くなってから、手遅れになってから歯を削ったり抜歯したりするのではなく、今こそ「予防管理型歯科医療」が求められていると考えています。

当院ホームページもご覧ください

<http://www.noborito.org>



PRESIDENT 2012年11月12日号

「人生の振り返り」に関するアンケート

70～74歳

① 歯の定期検診を受ければよかった

② 日頃からよく歩けばよかった

③ スポーツなどで体を鍛えればよかった

55～59歳

① スポーツなどで体を鍛えればよかった

② 日頃からよく歩けばよかった

③ 歯の定期検診を受ければよかった

80歳代で残っている歯の数



スウェーデン



21.1本



日本



13.0本

厚生労働省「平成29年歯科疾患実態調査」
Swedish dental journal vol39

子どものころから 歯科医院に通う価値とは

健康を育てる歯科医療

いくつになっても美味しくご飯を食べる、すてきな笑顔でお話をする…。
高齢になっても入れ歯に頼らない、健康なお口でいられるためのポイントは
0歳から20歳までの過ごし方にあります。



上のお口の写真は、歯科医院に小さいころから通院し、20歳でむし歯ゼロを達成した患者さんの写真です。このように健康できれいなお口であることは、何ものにも代えられない宝物をもっていることといえるでしょう。

U20(はたち前)の歯科予防

むし歯菌への
感染



指しゃぶり、口呼吸
などのクセ



歯周病菌への
感染



生活習慣の
乱れ



0歳



乳歯列

6歳



混合歯列

12歳



永久歯列

20歳

- ・むし歯の原因についての説明と理解
- ・家族のお口の中の環境を整える
- ・むし歯菌への感染予防

- ・正しい食習慣を確立する
- ・はみがきのトレーニング
- ・フロス、フッ素の使用
- ・口腔筋トレーニング
- ・早期矯正治療

- ・むし歯と歯周病の違いを理解する
- ・生活習慣が変わっても歯のセルフケアを
- ・成人メンテナンスへの移行
- ・本格的な矯正治療